平成27年度第2回広島県道徳教育研究協議会（全体報告会）

【研究報告Ⅰ】

分科会③

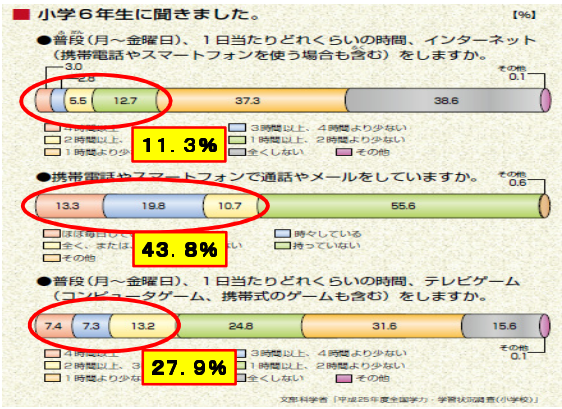
情報モラルを育む道徳の授業づくり

発表者：廿日市市立大野東中学校　教諭　松岡　洋介
運営者：広島県立芦品まなび学園高等学校　教諭　皿田　文隆

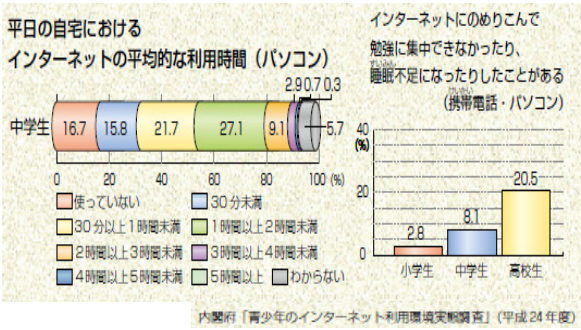
報告の流れ

1　はじめに
2　情報モラル教育
3　情報モラルと道徳の内容
4　情報モラルへの配慮と道徳の時間
5　終わりに

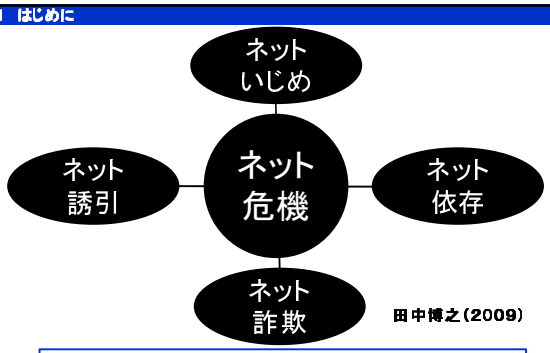
1　はじめに



1　はじめに



1　はじめに



田中博之（2009）

児童生徒の発達段階に応じた情報活用能力の育成に加え，情報モラル教育の充実を促す。

（教育振興基本計画　平成20年）

2　情報モラル教育

情報モラルとは

人間関係の希薄化や自然体験の不足など情報化の「影」の部分を克服しつつ，心身ともに調和のとれた人間の育成，情報モラルの育成に努める。

「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」 平成8年度中央教育審議会第一次答申の骨子

情報モラルの定義

「情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度」

（高等学校学習指導要領解説情報編　平成12年）

情報社会の特性

コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報技術の特性

◆社会で扱われる情報の「量」と「速さ」が格段に増加
◆デジタル化された情報の可塑性
◆相手の顔が見えないネットワークによるコミュニケーション
◆大人も子どもも区別されないネット参加

情報モラル実践キックオフガイド解説用資料
（財団法人コンピュータ教育開発センター）

情報社会の特性

情報技術の利用によって文化的・社会的なコミュニケーションの範囲や深度などが変化する特性

◆文字ベースのコミュニケーションでは誤解が生じやすくなる
→相手の立場を考え，思いやる気持ちを持つことが大切
◆社会的な影響力の大きさ
→責任ある情報発信が求められる
◆相手の顔が見えないネットワーク
→匿名性や，その匿名性を悪用した「なりすまし」に注意する
◆ネット上の有害で悪意のある情報が大人も子どもも区別なく流れ込んでくる

情報モラル実践キックオフガイド解説用資料
（財団法人コンピュータ教育開発センター）

情報モラル教育の内容

情報倫理（心を磨く）

・情報機器を介したコミュニケーションの際に「相手を思いやる気持ち」を大切にする
・メールや掲示板を使って情報を発信する際に自分の発信内容に責任をもつ　など

情報安全（知恵を磨く）

・個人情報の保護
・なりすましの危険から身を守る　など

土台

情報社会における情報の特性やコミュニケーションに対する理解

平成21年度情報モラル指導者養成研修資料（財団法人コンピュータ教育開発センター）

学習指導要領における情報モラル

小学校学習指導要領総則（平成20年）

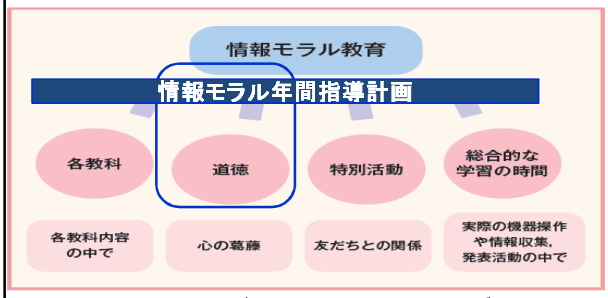
各教科等の指導に当たっては，児童がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段に慣れ親しみ，コンピュータで文字を入力するなどの基本的な操作や情報モラルを身に付け，適切に活用できるようにするための学習活動を充実する

中学校学習指導要領総則（平成20年）

各教科等の指導に当たっては，生徒が情報モラルを身に付け，コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を適切かつ主体的，積極的に活用できるようにするための学習活動を充実する

児童生徒一人一人に確実に身に付けさせなければならないものとしての扱い

体系的な指導



ここからはじめる情報モラル指導者研修ハンドブック
（平成22年　財団法人コンピュータ教育開発センター）

情報モラルと道徳教育

児童（生徒）の発達の段階や特性等を考慮し，第2に示す道徳の内容との関連を踏まえ，情報モラルに関する指導に留意すること。

小学校・中学校学習指導要領道徳（平成20年）

情報モラルに関する指導について，道徳の時間では，その特質を生かした指導の中での配慮が求められる。

小学校・中学校学習指導要領解説道徳編（平成20年）

道徳の内容との関連を図る。

●情報モラルに関する題材を生かしたり，
情報機器のある環境を生かしたりするなど
指導に留意すること。

●ネット上の書き込みのすれ違いなど他者への思いやりや礼儀の問題及び友人関係の問題，情報機器を生かすときの法やきまりの遵守に伴う問題など

小学校・中学校学習指導要領解説道徳編（平成20年）

道徳の時間の特質

「こうしなさい」「これはしてはいけません」と具体的な行動の指導をする時間ではなく，生きる姿勢を固めさせ，自分自身の生きる拠りどころとなる道徳的価値を自らのうちに定着させる時間

小寺正一（2001）

道徳的価値の自覚を深める

◆道徳的価値について理解すること
◆自分とのかかわりで道徳的価値をとらえること
◆道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われること

小学校・中学校学習指導要領解説道徳編（平成20年）

道徳の時間の特質を生かした指導

●情報モラルに関わる題材を生かして話合いを深める。
●コンピュータによる疑似体験を授業の一部に取り入れる。
●児童生徒の生活体験の中の情報モラルにかかわる体験を想起させる。

創意ある多様な工夫を

小学校・中学校学習指導要領解説道徳編（平成20年）

例えば，

●インターネット等に起因する心のすれ違いなどを題材とした指導
・・・相手の顔が見えないメールと顔を合わせての会話との違いを理解し，メールなどが相手に与える影響について考えさせる

他者への共感や思いやりについて考えを深めるように！

小学校・中学校学習指導要領解説道徳編（平成20年）

授業の実際

◇ 生徒の実態
生徒間トラブルの多くがSNSやインターネット上の安易な書き込みや誤解，感情の行き違いに起因するものが多い。

1 学 年　第3学年
2 主題名　信頼に支えられた友情 〔2－(3)〕
3 ねらい　主人公の気持ちの変化を考えることを通して，人間関係としての友情を考え，お互いに高め合い励まし合うことの大切さに気づき，よい人間関係を築いていこうとする道徳的実践意欲を育成する。
4 資料名　アキラのケータイ
（出典：「中学生の道徳3自分をのばす」
廣済堂あかつき株式会社）

	学習活動	主な発問と予想される児童生徒の心の動き（◎中心発問）	指導上の留意点（☆教師の視点）
導入	1 本日の学習について考える。	○ アキラシリーズの3年生版について学ぶことを確認する。 本校でも人間関係のトラブルの多くがケータイやスマホのSNSによるものであることを知る。	○ ケータイ電話やスマホの所持実態についてはあえて触れない。
展開	2 資料を読んで考える。	○ キッペイのケータイを見てしまった夜，アキラはどんなことを思ったのだろう。 ・自分が仲間外れにされている。 ・自分がケータイを持っていないので疎外感を感じる。 ・裏切られた。 ○ アキラが，「部活を休む」連絡をキッペイにしなかったのはどうしてだろう。 ・自分を裏切ったキッペイとは話したくない。 ・けんかになってしまう。 ◎ アキラが，「かっと体が熱くなるのを感じた」のはどうしてだろう。 ・裏切ったのは自分だった。 ・友達を信じられなかった自分が恥ずかしい。 ・二人に申し訳ない。 ○ アキラが，二人からもらったものとは，何だろう？ ・本当の友情　・信頼 ・信じることの大切さ	○ ケータイを盗み見た問題点を押えたうえで，裏切られたと感じたアキラの怒りと友人関係が崩れる不安をとらえさせる。 ○ キッペイに対するアキラの決定的な不信感をとらえさせる。 ○ 謝罪の気持ちとともに二人との友情を見つめ直すアキラの思いを感じ取らせたい。 ○ 本当の友人関係がケータイやスマホなどのツールにだけに依存するわけではないことに気付かせたい。
終末	3 本時を振り返る	○ 自分自身を振り返って，感じたことや考えたことをまとめよう。	○ コミュニケーションツールとしてのSNSの使い方についても自分の意見を書かせる。

4 情報モラルへの配慮と道徳の時間

生徒のまとめから

SNSは，言葉一つ間違えるだけで，相手を傷つけてしまうものだと改めて思った。ケータイやスマホには危険なことがたくさんあることも知った。これからスマホを使うときには，誰かを傷つけていないかどうかを意識して使おうと思います。

今は，SNSが発達していてほとんどの人が利用しているけど，やっぱり一番いいのは，相手の表情が見えた上で話すことなのかなと思いました。確かにスマホなどは，便利で実際に私も使っているけど，トラブルも多いし，今回の話のように勘違いをしてしまうことにもなるので，使い方には十分に気をつけていきたいと思いました。

4 情報モラルへの配慮と道徳の時間

◇ **成果**

○ 主題が「信頼に支えられた友情」であり，「友だちを信じることの大切さ」や「面と向かって話すことの大切さ」について記述した生徒が多かった。

◇ **課題**

△ ケータイやスマホの具体的な使い方やマナーなどの指導が必要である。また，家庭での指導や親子の約束等についての連携が必要。

5 終わりに

道徳の時間に情報モラルを
身に付けさせるために

学習指導要領に示された道徳の内容を指導する際に，情報モラルの視点を取り入れながら，道徳的価値の自覚を深める。

【留意すること】

情報機器の使い方やインターネットの操作，危険回避の方法やその際の行動の具体的な練習を行うことにその主眼をおくのではない。